

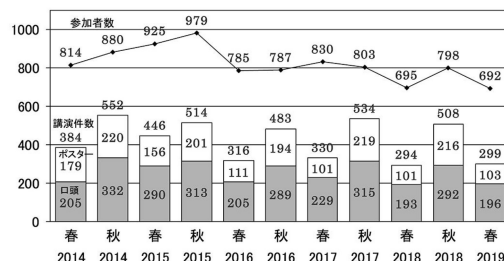
2019年度春季大会の報告

2019年度春季大会は、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2019年5月15日（水）～18日（土）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は692名であった（第1図）。

2日目午後には、大ホールにおいて総会が開かれ、原 圭一郎氏と増永浩彦氏に日本気象学会賞が、新野宏氏と林 祥介氏に藤原賞が、青梨和正・久保田拓志両氏に岸保・立平賞がそれぞれ授与され、総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場においてシンポジウム「多重階層システムとしての気候の研究」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。4日目には、気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションが開催され、34件のポスター発表が行われた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する4件の専門分科会が行われた。一般講演の発表件数は259件（内訳はポスターが103件、口頭発表が156件）、専門分科会は40件で計299件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会による公開気象講演会「新元号を迎えて～平成の30年を振り返り、新時代の気象災害に備える～」を含め、個別のテーマによる5件の講演会や研究連絡会も開かれた。



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。

今大会から製本版の予稿集を廃止し、全ての大会参加者に電子版予稿集の配布を行った。

会員の皆様には大会全般に関するアンケート調査にご協力頂き、誠にありがとうございました。

今大会の開催に当たり、24の企業・団体からご出展・リクルートブース開設・ご協賛・ご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、東京大学大気海洋研究所の皆様には大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに、ボランティアとして大会運営にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2019年5月 講演企画委員会